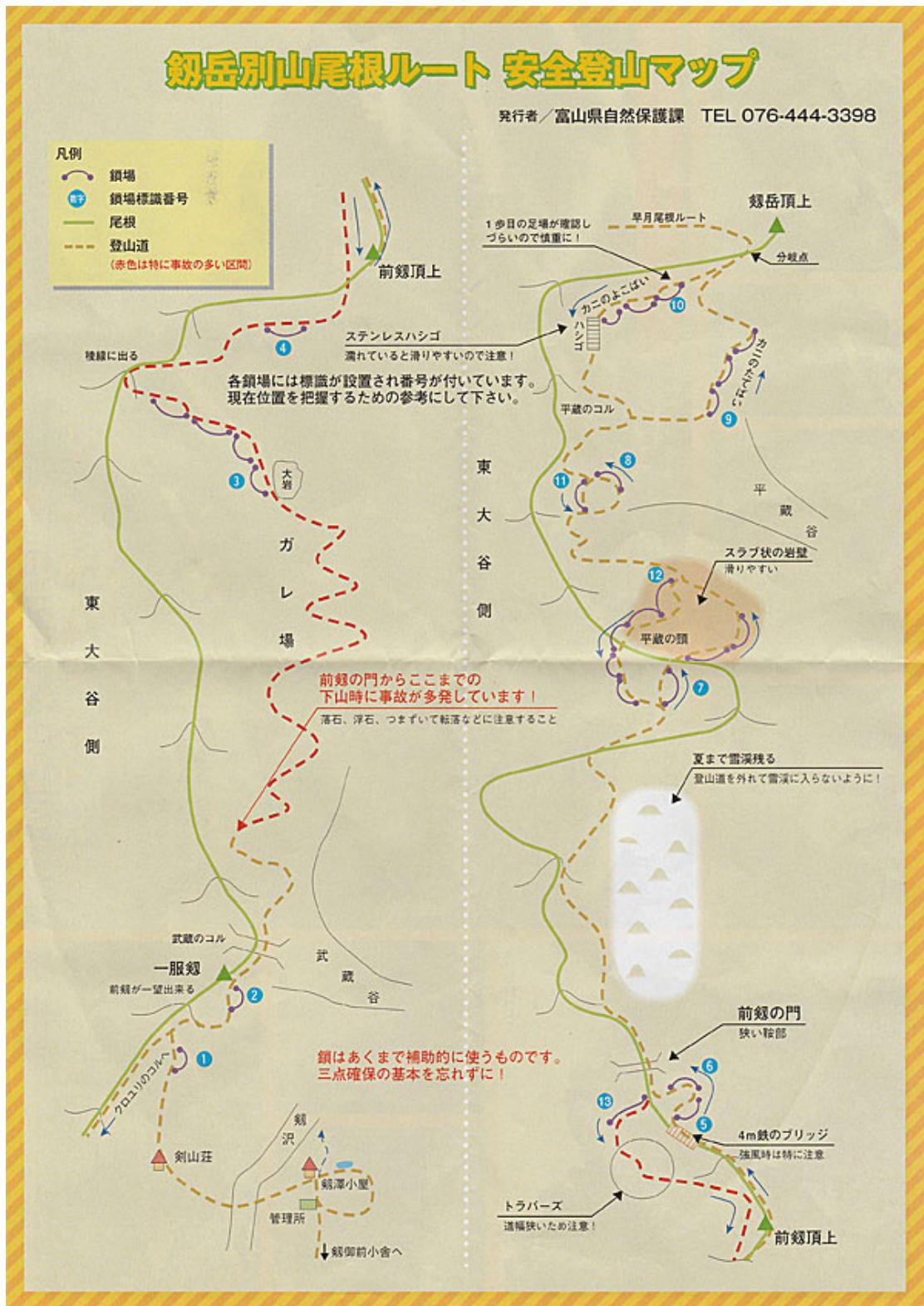


2016年8月5日（金）～7日（日）

## 剣岳 (2999m)

いよいよ剣岳に登る日がやってきた。ほぼ満員だった小屋の登山者の朝は早い。われわれはスケジュールに余裕があったので朝食後出発したが、結果的にはこれがよかったと思われる。本日のルートを安全に登れるよう下記のマップが用意されている。3人は安全登山を心がけようと誓って出発した。

Report by Fumito Takahashi





山小屋の朝は早い。

4時頃には3分の2位の人がヘッドランプを付けて出発して行った。

本日中に帰る予定の人も多そうだが、これはかなりハードなスケジュールである。登山道に不案内な我々にとっては、足元が暗い岩場を歩くのはリスクが大きすぎる。



5時30分からの朝食をゆっくり摂った。  
体力を持たせるために、いつもよりご飯も  
しっかり食べた。



出発前にお世話になった剣山荘の前での集合写真。

不要な荷物は全て山荘に預けて、最低限必要なものだけを入れたサブザックを担いで剣岳に挑戦する。勿論ヘルメット必携。

体調はいい。



5時55分、いざ出発。

天気は上々。



早速1番目の鎖場に来た。  
振り返ればいま出発してきた剣山荘が小さく見える。結構登ってきた。



ついで、一服剣前の2番目の鎖場。  
この辺までは余裕である。



一服剣（2618m）に到着。  
頂きには標識も無く狭い岩場だったが、まずは一息ついた。



一服剣から見た前剣（2813m）の全貌。  
これが剣岳ではないかと見間違うほどの大きな山だ。



一服剣を後にして「武藏のコル」を下った。右手は深い武藏谷につながり、その先には日本三大雪渓と呼ばれる「剣沢雪渓」が広がっているはずであった。

今年は殊の外暖かく、雪渓も早く無くなってしまったようだ。

この道はずっとガレ場が続くのだが、色々な高山植物に出会うことが出来た。



トリカブト



ハクサンフウロ



クルマユリ



大岩を右に見ながら3番目の鎖場を登る。だんだん険しくなってきた。



岩場に咲くミヤマダイコンソウ



続いて前剣を目前にした4番目の鎖場。



7時25分、前剣（2813m）に到着。山頂で集合写真を撮る。

写真を撮っていただいた方は剣岳を目指して仲間とやって来たのだが、登っているうちにこの山の大きさとリスクに圧倒され、ここで剣岳の登頂を断念。  
仲間が下山してくるのを待つことにしたことだった。



剣岳の雄姿が目の前に広がってきた。



前剣から、しばし下りの道に入る。



「4mの鉄のブリッジ」を渡った。  
左右が落ち込んでいるので、風が強いとかなり恐怖を感じそうだ。



ここから平蔵谷辺りまで4ヶ所の鎖場が続いた。

兎に角三点確保を忠実に守りながら、安全第一に進むことにした。



「4 m 鉄のブリッジ」を渡ると、すぐに5番目の鎖場



6番目の鎖場



7番目の鎖場



8番目の鎖場



そしてついに、9番目の鎖場「カニのタテバイ」に来た。



先ほどまでは登りを待つ登山者で大渋滞であったが、我々が到着した時は幸いに渋滞が解消していた。煽られることなく、時間をかけてゆっくり登ることができた。



上が岡部さん。そして高橋。  
慎重に歩を進めるが、注意していけば足場は意外としっかりしている。



「カニのタテバイ」を登り切ると、急に視界が開けてきた。  
もう少しで目指す剣岳に到着だ。

9時10分。遂に剣岳山頂に立った。

「無理かもしれない」と思っていたあの剣岳に登ることができた感動で、思わず手を取り合った。吊った後の足のしこりが取れ切っていなかった岡部さんも、頑張って登りきった。



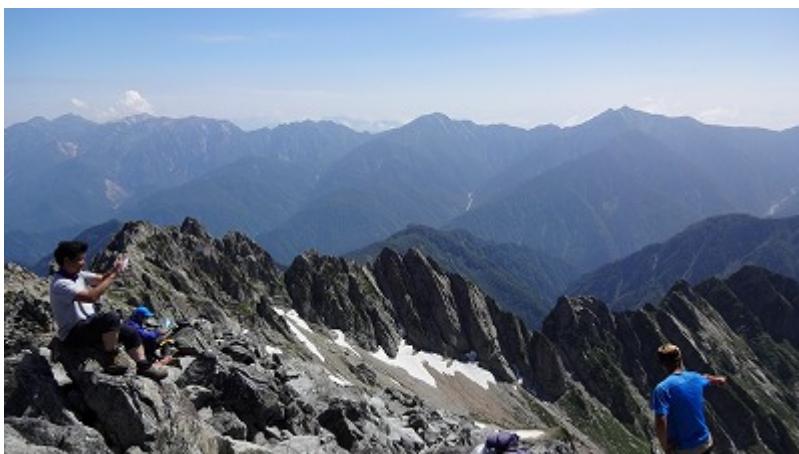
何度も剣岳に登った経験を持つ登山ガイドが、「自分の経験でも最高の登山日和だ！」と言っていた。雲一つ無く、風が程良く流れ汗を吹き飛ばしてくれた。我々は最高に恵まれた環境の中で剣岳に登ったのだと思う。クマさん旗を出して、剣岳神社をバックに思い出の写真を撮った。



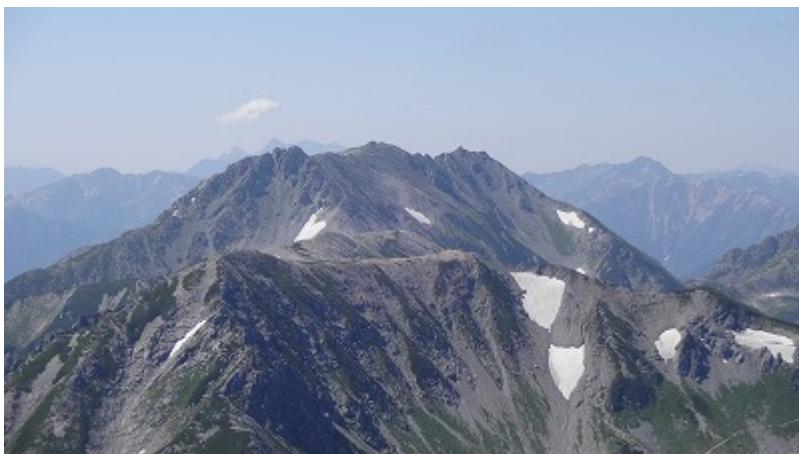


岡部さんはすっかり元気になった。

バックの切り立った尾根は、一般登山者は通行困難な「**北方稜線ルート**」。



「**北方稜線ルート**」の更に先には、「鹿島槍ヶ岳」「五竜岳」「唐松岳」（写真右のピークから順に）を望むことができた。



一方南に目をやると、大きく立山三山（右から「雄山」「大汝山」「富士ノ折立」）が迫っていた。

遠くには、薬師岳、槍ヶ岳も遠望できた。

頂上には結局40分もいた。それほど天気が穏やかで眺めも良く、飽きることが無くて去り難かった。いつまでも名残惜しかったけれど下山を始めた。



早速、数ある鎖場の中の最難関「**カニのヨコバイ**」（10番目の鎖場）に挑まなければならない。

「カニのタテバイ」とは違って大渋滞だ。一步目の足場が見えない。三点確保ができない箇所もある。細心の注意を要した。



「カニのヨコバイ」の写真を撮るような余裕はなかった。

「ヨコバイ」を渡り終わってステンレスハシゴを下る段になって、やっとカメラに映像を収める余裕ができた。



1 1番目の鎖場も気が抜けない。  
これは下り専用の鎖で、丁度岩の裏側に登り専用の8番目の鎖場がある。



1 2番目の鎖場も下り専用だ。

「平蔵の頭」と呼ばれているあたりのスラブ上の岩壁に沿って、何本も鎖が続いている。登り専用の7番目の鎖場は、この裏にある。



1 3番目の鎖場まで来た。  
登りに通った「4 m鉄のブリッジ」を迂回する形で掛けられている鎖場だ。

これですべての鎖場を渡り終わった。後は登りのルートを逆に前剣、一服剣と戻って行けばよい。



前剣と一服剣の間はガレ場になっていて、疲れた足には最も負担が大きく、下山時の事故が多発するところだそうだ。そこも無事に通り過ぎて、やっと一息入れられるところまできた。

ヘルメットは日差しを遮らないので暑い。鎖場でかなり上半身も使ったので、腕が張っている。しかし、まずは一安心だ。



12時30分、剣山荘に戻ってきた。

コーラが体に染み渡る。

「うまい！！」

山荘で用意してくれた昼食をとり、日陰で涼をとって身体を休めた。



剣山荘から「クロユリのコル」を通るルートを利用して、本日の宿泊地「剣御前小舎」に向かった。

振り返ると前剣の威容が見える。剣山荘は既に小さくなっていた。



途中雪渓を横断。

気温は高く雪渓は緩んでいる。

この辺りにも高山植物があった。



クモマグサ

ほぼ予定通り15時に剣御前小舎に着いた。今日は天気が絶好の土曜日で、小屋は一杯のようだ。2畳に3人が寝るあり様だが仕方が無い。



まずは部屋に落ち着いて、他の客が来ない間に手足を思い切り伸ばした。



念願の剱岳を登ってきた充実感がみんなの心を満たしている。  
人心地ついたところで休憩所に陣取り、夕食前のビールで乾杯。  
ウーン、沁みる。

上ほど天気に恵まれたのか、夕方になっても雲が無く小舎から剱岳の全容が見られた。  
小舎の職員にとっても久しぶりだそうだ。





剣に登った余韻にひとりながらの夕食。  
本日の登山の話に花が咲いた。

こんな登山日和に恵まれるのは珍しいかもしれない。しかも剣岳登山のこの日に、この日和とはラッキーでした。3人とも初チャレンジで、無事に山頂に立つことができたことに大喜びでした。早速熊本さんに連絡を入れ、大成功であったことを報告しました。

明日、のんびりと下山をして温泉に入り、美味しいビールをグーッと飲み干す夢を見ながら、深い眠りにつきました。